

マウント・ヤムナスカ 山旅報告書

No. 4

日 時：2026 年〔令和 8 年〕6 月 30 日

参 加 者：岡村眞由美・岡村繁雄 他 2 名

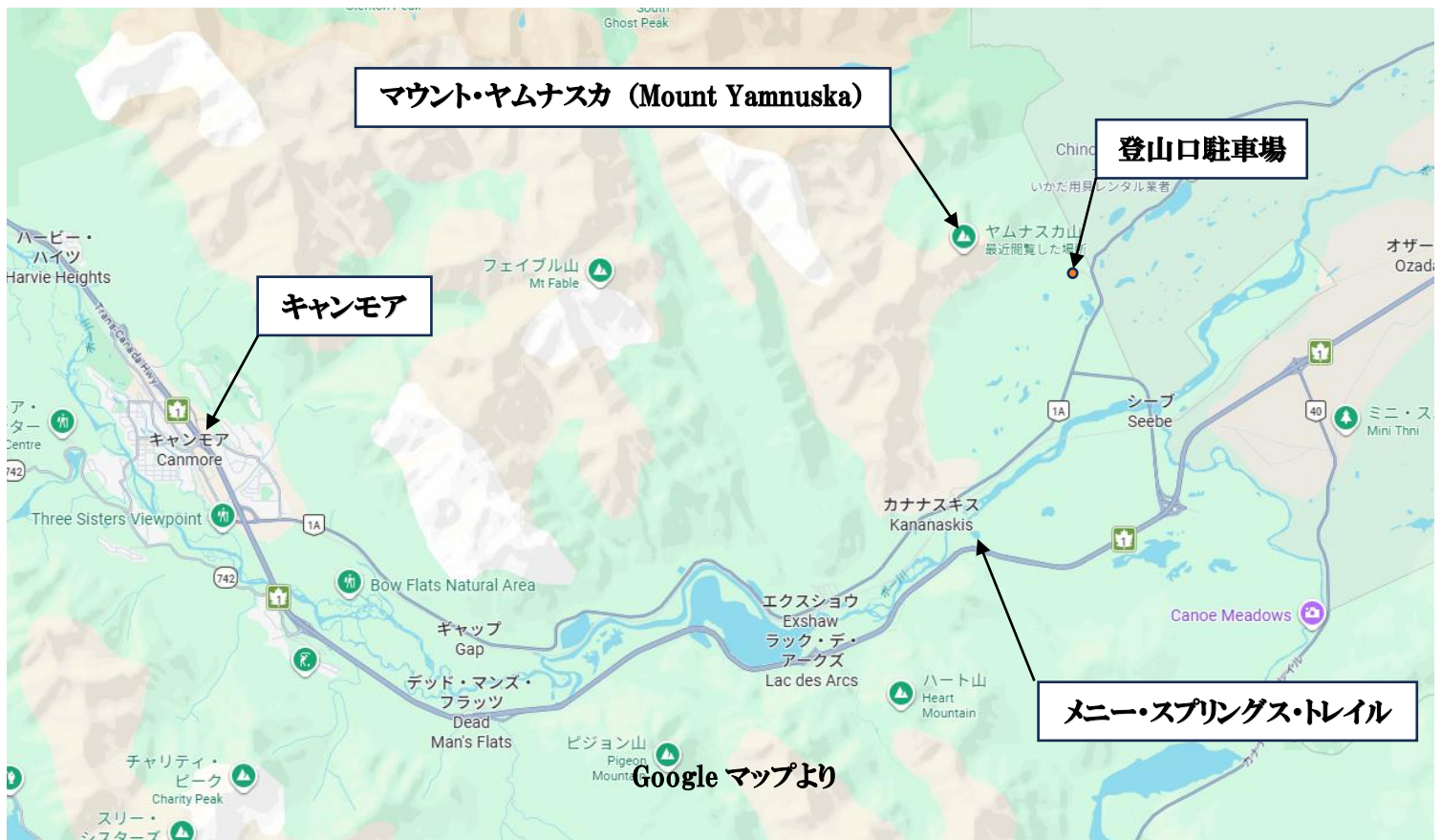
行 程：ヤムナスカ駐車場 → 岸壁直下 → マウント・ヤムナスカ〔2,240m〕→ ヤムナスカ駐車場
行動時間：6 時間 10 分

B&B モナークを出発し、約 30 分でヤムナスカ登山口の駐車場に到着した。曇り空ではあったが、空気はひんやりと澄み、清々しい朝である。7 時 40 分、登山を開始した。

登山道の中腹までは、今回のカナダ旅行で何度も目にしてきた色とりどりの花々がここでも咲いており、歩きながら目を楽しませてくれた。インディアン・ペイントブラシをはじめ、スポッティッド・サクシフリッジ、イエローフラワード・フォルス・ダンデライオン、シルキー・スコピオンウィード、プリックリー・ローズなど、さまざまな花が登山道を彩っていた。

一方、周囲は全体的に霞がかかったような状態で、遠望はあまりきかなかった。この時期、アルバータ州北部では複数の大規模な山火が発生しており、その煙が広範囲に流れ込んでいた。ニュースでも、焼失面積が東京都とほぼ同じ規模になる可能性があると報じられており、その影響でアルバータ州一帯の大気が霞み、視界が悪くなっていた。

本来であれば、ヤムナスカからはロッキーの山並みを遠くまで見渡せるはずである。今回はその大展望を楽しみにしていただけに残念ではあったが、自然災害によるものだけに仕方がない。





掲示板より今回のルート (■■■ ハイキングコース ・ ■■■ 一般登山道)

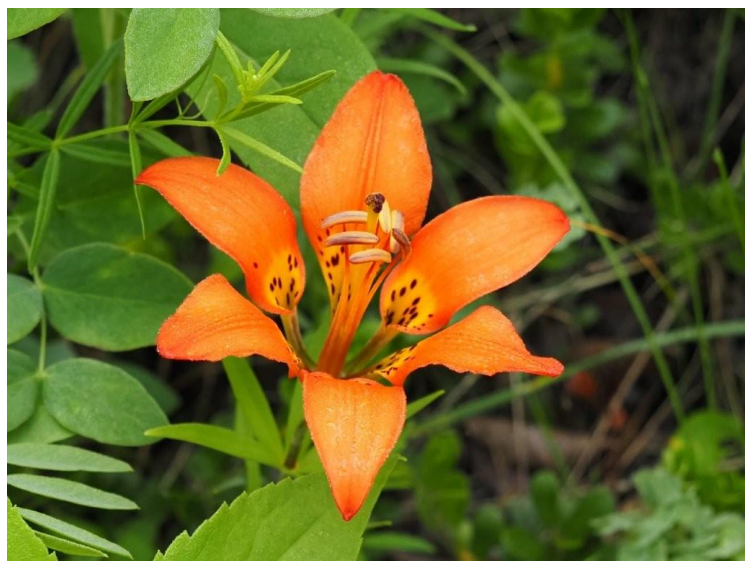


ヤムナスカ・リッジ(Yamnuska Ridge)登山口 駐車場



登山口





コース沿いに インディアン ペイントブラシが多く咲き誇っていた



インディアン ペイントブラシ



林の奥に 草を食む二頭の鹿を見つけた〔望遠〕

さらに、林の奥には草を食む二頭の鹿を見つけた。かなり遠かったため望遠レンズでの撮影となったが、静かな森の中でのんびりと草を食む姿が印象的だった。



ユキノシタ属 スポッティッド サクサフリッジ (Spotted Saxifrage)



イエローフラワード フォルス ダンデライオン
(Yellow-flowered False Dandelion)





シルキー スコーピオンウィード (Silky Scorpionweed)



種小名キンロバイ シュラブビー シンクフォイル (Shrubby Cinquefoil)



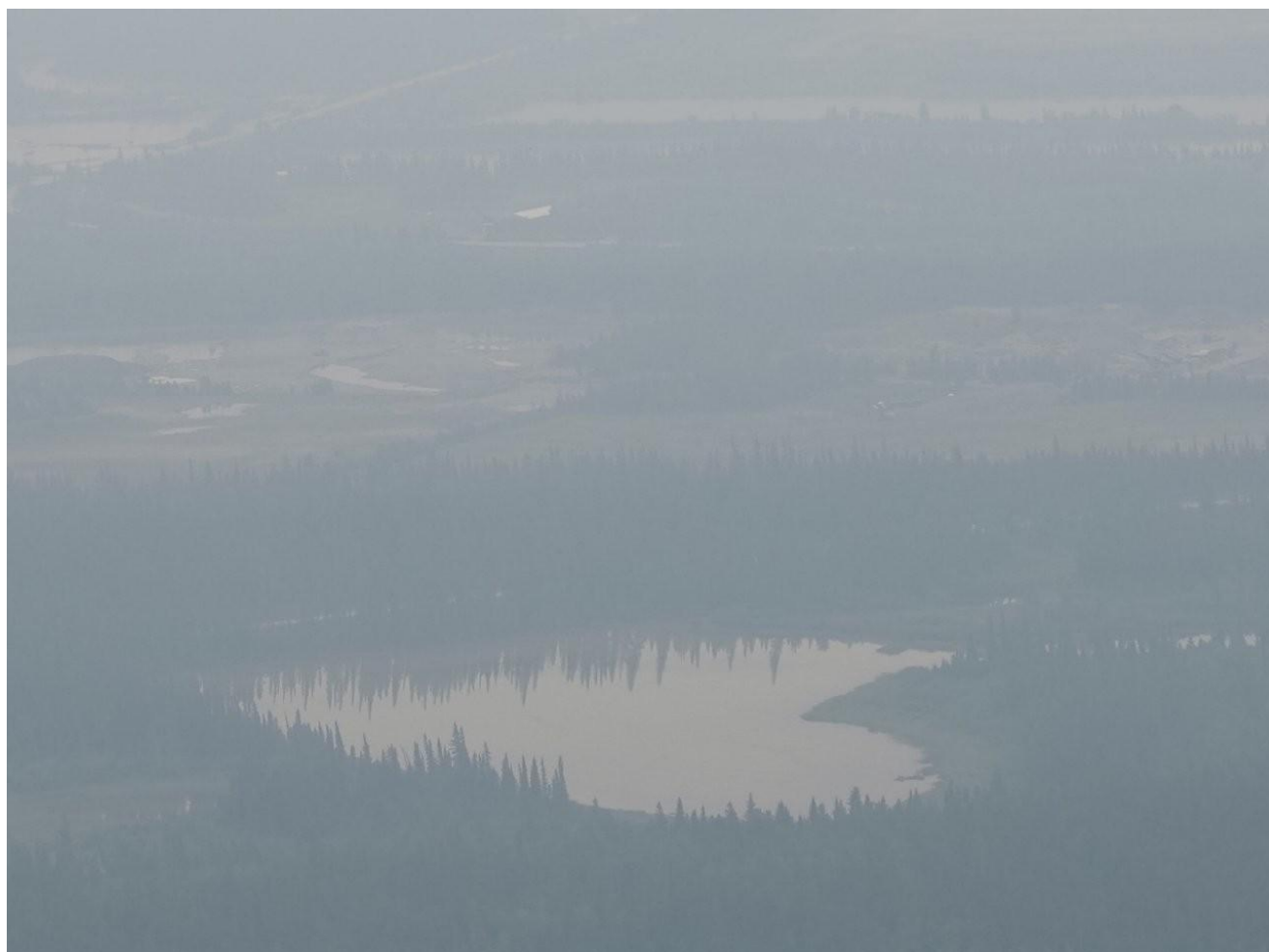
バラ属 プリックリー ローズ (Prickly Rose)



登山道では、今回のカナダ旅行中に何度も見かけたゴールデンマントルド・アシリス (Golden-mantled ground squirrel) が、また姿を現した。山に入るたびに会うが、その愛らしい姿を見ると、何度出会ってもついカメラを向けたくなくなってしまう。



大規模な山火事の影響で視界が悪い 遠くは見えなく近くの池がぼんやりと見えている



ぼんやりと見える池の中で ハート型の池があった〔望遠〕



岸壁直下

岸壁直下までは、よく整備されたハイキング道が続く。ここまでは比較的歩きやすいコースであるが、岸壁直下から先は本格的な登山道となる。

要所要所には道標が設置されており、ルートも分かりやすい。途中には岩と岩の間を抜けたり、手を使って岩場を登ったりするスクランブル区間もある。

この日は、カナダに入ってから連日歩き続けていたこともあり、さすがに疲れがたまってきたようだ。無理をせず、ゆっくりとしたペースで山頂を目指した。



岸壁直下からすぐ この先で岩と岩の間を抜ける〔10:10〕



この岩の間を抜けるスクランブルルートを通常すると登山道となる〔10:13〕

※ スクランプルートとは、ザイルなどを使用するほどではないものの、手も使いながら岩場を登るルート



[10:14]



[10:27]



[10:38]



[10:39]



要所要所には道標が設置されており、ルートも分かりやすい 一番右の岩峰が山頂〔11:00〕



岩場をトラバースする箇所は、しっかりとした鎖が設置されている〔11:02〕



途中には岩と岩の間を抜けたり、手を使って岩場を登ったりするスクランブル区間もある。

岩場をトラバースする箇所には、しっかりと鎖が設置されており、安心して通過することができた。周囲には特徴的な岩峰が連なり、目印となる道標を確認しながら登っていく。前方には、ひときわ高く見える山頂部が徐々に近づいてきた。

〔11:04〕



〔11:11〕



山頂はもうすぐ〔11:29〕

山頂までの登りは、暑すぎず寒すぎず、歩くにはちょうどよい気候であった。11時30分頃、マウント・ヤムナスカ〔2,240m〕の山頂に到着した。

山頂はほぼ無風で快適だった。ここでもリスが足元をちょろちょろと走り回り、我々を和ませてくれた。山頂で出会ったリスの一匹には、背中に円形に毛が抜けているように見える部分があり、思わず写真に収めた。

しかし、山火事による煙の影響で周囲は薄いベールをかけたように霞んでおり、本来期待していた大展望を楽しむことはできなかった。遠くの山並みはほとんど見えず、近くの池がぼんやりと見える程度であった。その中には、望遠レンズで見るとハート形に見える池もあり、霞の中に浮かぶその姿が印象に残った。

しばらく山頂で休憩した後、ウエスト・コル方面へ向かって下山を開始した。



マウント・ヤムナスカ 山頂にて



山頂でも足元で リスが走り回っていた



背中に円形に毛が抜けている 山頂で出会ったリス(Golden-mantled ground squirrel)



山頂よりウエストコルへ向かって下山



ウエストコル付近
後方 山頂方向を望む



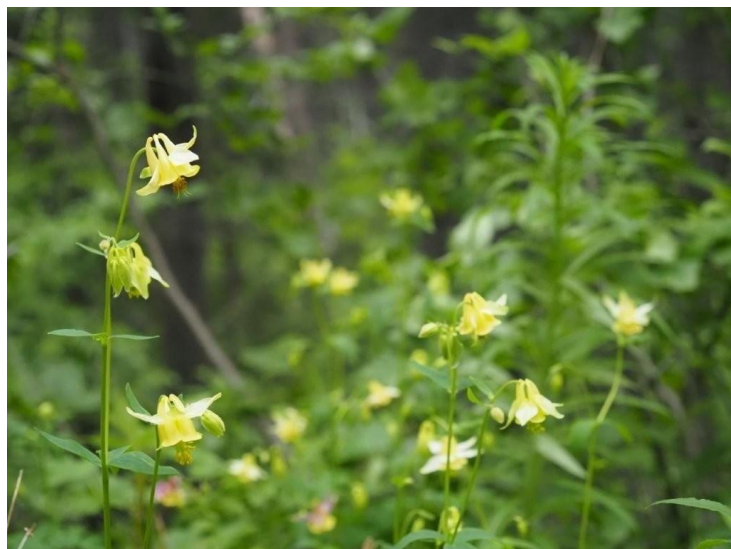
ウエスト・コル・トレイルよりマウント・ヤムナスカの岸壁を見上げる



アツモリソウ属 イエロー レディース スリッパ (Yellow Lady's Slipper)

下山は、登ってきたルートとは異なるウエスト・コル方面へ向かった。山頂を振り返ると、先ほどまでいた岩峰が大きくそびえ立っている。ウエスト・コル付近まで下ると、マウント・ヤムナスカの特徴的な岸壁を見上げることができ、その荒々しい岩壁は登りとはまた違った迫力を感じさせてくれた。

下山道の後半でも、さまざまな花々が咲いていた。登りでは気づかなかった花にも目が留まり、写真を撮りながらゆっくりと下っていった。



オダマキ属 イエロー コロンバイン (Yellow Columbine)

今回のヤムナスカ登山では、山火事の煙によって期待していた遠望を楽しむことはできなかった。しかし、色とりどりの高山植物、林の中で出会った二頭の鹿、そして何度も姿を見せてくれたリスなど、カナダの豊かな自然を身近に感じることができた。また、岸壁直下からの岩場歩きや鎖場、スクランブル区間など、変化に富んだ山歩きも十分に楽しむことができた。

所要時間は、駐車場から岸壁直下まで約 2 時間 10 分。そこでゆっくり休憩した後、山頂まで約 1 時間 30 分、下山は山頂からウエスト・コルを経由して駐車場まで約 2 時間であった。途中で何度も休憩を取りながら歩いたため、全体の行動時間は約 6 時間 10 分となった。

下山道後半、様々な花々が見られた。

所要時間は、駐車場から岸壁直下まで約 2 時間 10 分、そこでゆっくり休憩した後、山頂まで約 1 時間 30 分。下山は山頂からウエストコル経由で駐車場まで約 2 時間であった。途中で何度も休憩を取りながら歩いたため、行動時間は約 6 時間 10 分となった。

遠望には恵まれなかったものの、花々や野生動物との出会い、そしてヤムナスカ特有の岩場を楽しむことができ、印象に残る一日となった。